

HIGASHI COMPASS

- スピーチコンテスト
- 旺文社コンクール
- 体力づくりコンテスト
- 12月のコラボ授業
- 1・2AB TGG語学研修
- 1～3CDEマナー教室

2学期を終えて

校長 菊地 知恵子

4年ぶりにほぼ通常通りの行事を実施した2学期が、充実のうちに終わります。2学期にはAB組とCDE組と一緒に取り組む行事がたくさんありました。名前を知り、一緒に活動することで理解しあえる友だちが増えました。東中らしさとは何だろうと考えるとき、CDE組の生徒の存在感は大きいものです。AB組の生徒たちが何かを決めるとき、「それでCDE組はやりやすいか？」と言うことがあり、CDE組の生徒のことに考えが及びます。成長過程にあるがゆえに、学校生活では上手くいかない出来事も起こります。しかしそれは、お互いの学びとして乗り越えていかなければなりません。友だちと「共によく在る」学校生活、いふなれば東中well-beingの精神は、40年間で生徒たち自身が作ってきた校風です。

○自ら心に埋める「タネ」

スピーチコンテストにむけては全員がクラスでスピーチを行い、代表者による本選では、それぞれが自分と等身大の内容を、誠意をもって主張する姿がありました。互いに友だちの考えることを聞き、自分の中に落とし込んで良く考える機会になっているようでした。

また3年AB組の授業参観での「3年間生命科を学んで」の全員のスピーチは、15歳までの精神的な成長を十分に感じられるものでした。3年間計79回（1年29・2年31・3年19）の授業は、基本となる単元は決まっていますが、その学年のAB組の担任の先生方の合議により内容や題材を改訂しています。身近な友人関係から将来観、SDGsやニュースリテラシー、過去の戦争や国際問題、生命、死生観についてなど、普段の生徒を良く知り信頼関係にある先生であるからこそ、生徒の心の奥に届くようなオリジナルの題材を選んで、生きた授業ができます。

以下生徒のスピーチの中にあつた言葉から。日常に見聞きするニュース、自分には何もできないから、自分には関係ないから、と思っていたけれど、深く知れば、心が動く、心が痛む。生命科の授業で何回か号泣した。当たり前の一日は決して当たり前ではなく、どんなことも自分に関係ないことではない。まだ知らないこと、理解できていないことがある。他人への感謝がわかる。これからの自分の生き方を考える。など。

義務教育を終える15歳の時点の一つの完成形とする東中の教育で、3年生は3年間の学校生活を通して、しっかりと自分を成長させてきたことがよくわかりました。何人かが「価値観をもつ」という言葉を使っていました。目に見える価値だけではなく、心の中に目に見えない価値観を育て始めているに違いありません。心の痛みは他者を思いやる原動力にもなります。ずっと後になって大人になってから再び考える「タネ」を心の中に埋めたかもしれません。教育は時間が経てこそ生きるものです。心が動いた先をどこに向けるのか、考え抜いてほしいです。発表の最後に担任のK先生からの言葉。「この3年間の学びを綴じた生命科のファイルは東中にしかないもの。ぜひ卒業してからも見返してほしい。15歳の考えは、これからの経験で変わっていくかもしれないし、15歳の考えに立ち返る時もあるかもしれない。これからも人として成長して行ってほしい」。それは東中の先生達全員の願いです。

○冬休みの生活

明後日から冬休みです。融通のきく時間を主体的に使えるようになることも、休みならではの成果です。そして家族の一員として必ず家事はするようにしてください。年明けにはいよいよ受験に臨む3年生にとっては一日一日が貴重です。ぜひ大切に過ごしてください。ご家族の皆様が健康に気をつけてよいお年をお迎えくださいますように。

スピーチコンテスト

12月14日にスピーチコンテストの本選が行われました。A B組はクラス内予選で選出された代表2名が、C D E組は各学年の代表1名が出場しています。

本選は内容と表現を審査基準としています。自身の経験や体験も織り交ぜた上級生のスピーチは下級生には勉強になったことと思います。また1年生も堂々としたスピーチを行い大変立派でした。

以下に入賞者のスピーチ内容を掲載します。



発表順	年組	発表者氏名	テーマ
1	1 D	S・T	中学校で経験した事
2	1 B	S・H	やさしさとは
3	2 D	F・M	絆
4	3 A	H・S	「自由」に適應するために
5	3 A	H・Y	比較
6	2 A	K・A	歴史を学ぶということ
7	2 B	M・K	失敗から成功へ
8	3 B	S・Y	緊張
9	2 A	M・R	シンギュラリティの到達
10	1 B	I・R	言葉を伝える大切さ
11	3 C	K・T	挨拶の大切さ
12	1 A	T・K	真っ白になったこと
13	1 A	A・Y	友人との出会い
14	2 B	E・T	“寛大”なところ
15	3 B	N・E	笑いの力

1位 T・K 『真っ白になったこと』

ちょうど2年前の今頃、毎週月曜日は、能舞台のあるけい古場で、狂言を習っていました。東京都主催の伝統芸能体験に当選したからです。私は、落語や狂言などお笑いの源流でもある日本の伝統芸能が好きで、一度、届ける側を体験したいと思っていました。半年弱のけい古の最後には、狂言を演じます。役をいただき、所作、セリフを身体に浸み込ませていきます。

発表会の当日。私含め3人で演じた演目は「口真似」。私を先頭に、舞台へとゆっくり向かっていきます。そして事態が発生します。「これは、このあたりに住まいたすものでござる。今日、……。」まさか、最初のセリフが飛んでしまったのです。この何倍もの沈黙がさらにセリフを忘れさせていきました。頭が真っ白になるとはまさにこのことです。リハーサルでは失敗しなかったのに、と悔しさがどんどん湧き上がってきました。

私は大失敗をしてしまいました。その後はスムーズに出来ても、大切な最初を壊してしまいました。仲間への申し訳なさ、自分へのやるせなさで終わった後は一杯でした。

あれから2年。セリフが飛んだ経験は気づきを与えてくれました。なぜセリフが飛んでしまったのか、理由を考えてみると、本番はリハーサルに比べて観客が入ったため失敗出来ないというせりりと、一番最初のセリフは練習回数が多いため失敗するはずがないというおごりが大きかったのだと思います。

この失敗は私に何事も油断は大敵ということ、自信があってもおごらず努力を続けることが大切ということに気づかせてくれました。失敗は時に、私達のことを助けてくれている気がします。過去が未来を助けるかのように。だからもし、また失敗があったとしても一つの経験ととらえ、そこで得たことは心の中にそっとしまっておこうと思います。

2位 S・Y 『緊張』

まず、みなさんに質問です。「緊張とはどういう意味でしょうか？」この体育館の中にいる生徒また先生は、人生で一回は緊張を経験した事があると思います。では緊張とはどういう意味なのでしょう？私は、緊張の本当の意味を知らなかったため、調べてみました。そうすると、緊張とは、失敗を恐れた時に起こる心のはり、体が硬くなる事を言うそうです。この時に起こる体の反応としては、手が震えるだったり、顔が赤くなったりと様々な事が起こります。このように私はとても緊張する事が嫌いでした。ですから、「緊張なんていらぬ」「緊張なんてなくなってしまうといい」と思うようになっていました。

しかし、それは間違っていました。その間違いを正してくれたのは、あるスポーツ選手の一言でした。そのスポーツ選手というのは、車イステニスの世界王者である国枝慎吾選手です。この選手は、試合前に「俺は最強だ」と自分を鼓舞する言葉で有名であり、最初は国枝選手は緊張とは無縁の方だと思っていました。しかしそうではなく、国枝選手は、「緊張はするが緊張を自分の味方にする事が大切だ」と述べていました。これはどういう意味かという、言葉通り、緊張をするのをやめようとするのではなく、緊張をする事を大切にすることが大事だと言いたいのだと思います。ではなぜ、国枝選手は緊張を味方にするのが大切なのだと思うのでしょうか？緊張には、メリットがあるのではないかと思い調べてみる事にしました。そうすると、緊張をする事によって人間の筋肉は硬直します。筋肉が硬直する事によって、人間は知らぬ間に戦闘モードへと変わっていきます。戦闘モードになる事によって、「やってやるぞ」と思うようになります。つまり、緊張する事によって自分の実力などを発揮しやすくなるという事です。ですから、緊張している時は自分がやってやるんだと体が思った時ではないのでしょうか？

確かに緊張は、手が震えたり、顔が赤くなったりと嫌な事があります。ですが緊張は人間には欠かせないものだと思います。これから、私、みなさんは様々な場面で緊張と向かい合うと思います。そこで緊張をしたくないと思うのではなく、緊張をする事は、それだけこの事に対して「やってやるんだぞ」と思っているんだと誇りに思っていると思います。私は、これから高校受験や高校での出来事で緊張する時があると思いますが、緊張する事を誇りに思い、一步一步、前に進めたら良いと思います。

3位 H・Y 『比較』

「比較は喜びを奪う。」これは第26代アメリカ大統領のセオドア・ルーズベルトの言葉です。なぜ比較をすると喜びが奪われてしまうのでしょうか。

私は、この問いの理由として、「比較をすると相手より優位に立ちたいという気持ちが芽生え、結果に満足しなくなるからではないかと考えました。この様な気持ちがあると、たとえそれが自分にとって良い結果であっても、純粋に喜べなくなると思います。

このルーズベルトの言葉を初めて聞いた時、私は真っ先に受験のことが頭に浮かびました。3年生になり、受験勉強が本格化して以降、私は順位や自分の位置というものに敏感になっていきました。模試の結果が返されると、点数が上がったことより順位に目がいくようになり、その影響で自分が目指すべき目標を見失ってしまった時もありました。今ふり返ってみると、私はあの時、周りと比較するだけでなく自分自身と向き合う必要があったなと感じています。

比較は、決して悪いことではありません。比較をすることで自分がこうなりたいと思う理想像が見つかったり、また相対評価として自分の位置を俯瞰することができるので、先程申し上げたように現状に満足せず、より高みを目指したりすることができます。しかしあまりにも他人と比べることに拘泥しすぎて、本来感じることできた喜びや達成感、さらには自分自身も見えなくなってしまうと思います。これは受験のみならず全ての物事でいえることです。日常生活には常に沢山の比較が存在しています。だからこそ、過度な比較によって喜びが失われてしまわないよう、一番に向き合うべきは自分だという意識を持つことが大切なのだと思います。私も、入試まで残りわずかとなった今、合格という、受験において最大の喜びを得られるよう正々堂々、自分自身と向き合っていきたいと思っています。

第37回 毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト 優良賞(全国13位)受賞!

12月9日(土) 第37回毎日カップ「体力づくりコンテスト」の表彰式が毎日新聞社本社にて行われました。本校は全国で4072校がエントリーする中、9月に第一次審査で上位300校に選ばれ、11月の第二次審査～最終審査を経て全国上位13番目となる優良賞を受賞しました。このコンテストは中学3年生の体力テストの結果をもとに、3年間での体力の伸長や日々の取り組みを総合的に評価し、審査する権威あるコンテストです。表彰式には中学校を代表して、3年宮田さんが伊藤先生とともに参加しました。

全国から代表32校が集まる中、東京都からの選出は本校含めて2校のみでした。選考対象の3年生は各個人の総合評価が5段階(A～E)に分かれている中、男子は上位2段階(A・B)に57.78%、女子は80.0%が入るなど、3年間の継続した取り組みが評価されたようで、身体が大きく成長するこの時期にしっかりと体力をつけられたことは生徒にとって大きな自信へと繋がったようです。表彰式後は、大相撲元関脇の勢様による記念講演があり、相撲を始めるきっかけから夢に向かっていくことの大切さなど、全国から集まった生徒に熱いメッセージが送られました。



探究科 全国学芸サイエンスコンクール(旺文社)5年連続入賞!!

3年生が昨年2年次に提出した探究科の作品の中から優れたものを選抜し、学校代表として今年度の旺文社主催「第67回 全国学芸サイエンスコンクール」に応募したところ、以下の通り2名が受賞しました!同コンクールは、1957年から青少年の学術・科学・文芸の振興を目的に毎年旺文社が実施しているもので、内閣府・文科省・環境省からも後援を受けており、今回も8万点を超える応募があった規模の大きなコンクールです。社会科自由研究部門(中学生の部)では1,447点の応募があり、この中で見事に2名が入選に選ばれました。



「全国学芸サイエンスコンクール」のHPにて詳細を確認できますのでぜひご覧ください。

○社会科自由研究部門

《 旺文社赤尾好夫記念賞 入選 》

3年 奥川 愛月 さん

「オノマトペの可能性

～コミュニケーションからの応用～

3年 早川 潤 くん

「色で変わるポスターの印象」



「コラボ授業」 12月に実施したものを紹介

本校の教育の重点は、「新たな価値観を創造する本質的な学び」。従来の教科型の授業を脱して、教科を横断した学びによって本質を追究していくのが、今年5年目を迎える「教科横断型（コラボ）」授業です。コラボ授業では、複数の教科の先生がそれぞれの専門性を活かして、あるテーマに沿って一緒に授業を展開していきます。それぞれの教科で学んだことが結びつき、多角的な視点をもつことで理解は深まります。コラボ授業は、東中オリジナルの授業で、シラバス内に位置づけられ定番となったものがある一方、毎年、先生方の新たな試みがあり、常に発展し続けています。今回は12月に行われた、4つのコラボ授業を紹介します。

1年生 数学×技家 立体図形と製図

数学の見取り図ではキャビネット図が用いられることが多いですが、製図で用いる等角図のかき方を学ぶことで、それぞれの良さを知ることができました。また、投影図において、数学と技家では平面図と立面図のかかれる位置が逆になるという違いにも気付くことができました。投影図をもとにキャビネット図をかく時間では、形を想像し、試行錯誤しながら取り組む様子が見られました。



2年生 数学×社会 箱ひげ図で日本の気候を見てみると…?

12か月の各地の降水量・平均気温・日照時間を、数学で学習した箱ひげ図を使って表したものがありません。これが日本のどこの都市のものか推測します。社会の地理分野で学習してきた、各地方の基本的な気候の情報などを踏まえて考えることで箱ひげ図に表れている様々な特徴を説明することができました。季節風や場所の影響・梅雨前線や台風の影響など社会で学習してきた様々な知識を思い出すことができました。また、箱ひげ図を使うことで複数のデータを並べて比較が容易にできるというメリットがある反面、何月が最大値かなど読み取れない情報もあることに改めて気付くことができました。



2年生 国語×英語 枕草子を英訳しよう!

2年生は2学期の国語の授業で枕草子を学習し、暗唱もしました。それを踏まえ、枕草子の第一段をいくつかに分け、グループごとに紙の和英辞典を使って英訳に挑戦しました。「春はあけぼの」一つ訳すにも、意味を重視してThe dawn is most beautiful in spring.とするのか、作者の思いを尊重して、語順をなるべく変えないようにIn spring the dawn is most beautiful.とするのがいいのか、正解がないところも今回の課題のおもしろい点です。生徒は辞書で調べるために言葉をあれこれと置き換えるのが難しかったようです。それぞれが英語の授業で習った文法や熟語を駆使して熱中する様子が見られました。今回の学習を通して、改めて日本語に省略が多いこと、英語の主語と動詞の重要性など、文法的な特徴に気づくことができました。

3年生 社会×技家 消費者トラブルとその対策

家庭科では生活者として意思決定をすることを目指し、3年生では消費生活について学びます。契約とは何かの学習を進める中で身近にも起こりうる悪質商法についても考えていきます。これは社会科の公民分野で学ぶ、消費者の権利と責任とリンクする内容です。実際にあったトラブルの事例をもとに、その対処法として代表的なクーリング・オフ制度を活用するために必要な通知書の書き方を学びました。消費者を守ってくれる機関や法律についても復習するとともに最近多くなっているSNSでのトラブルについても触れ、「賢い消費者」を目指します。

1・2年AB組 TOKYO GLOBAL GATEWAY語学研修

1・2年AB組は、12月6日に東京都の体験型英語学習施設であるTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) で語学研修を行いました。今回は、今年1月にオープンした立川GREEN SPRINGSの施設を使用しました。活動は7～8名のグループ単位で行い、それぞれ1名ずつイングリッシュ・スピーカーのスタッフの方がつき、サポートします。施設内には、カードを使ってミッションを達成する「アトラクションシーン」と、英語を使いながら様々な活動に取り組む「アクティブイマージョンシーン」の2種類の体験があり、学年ごとに4つのセッションを体験しました。

「アトラクションシーン」では、買い物や飛行機内での会話、レストランでの注文等をミッションとして活動しました。「アクティブイマージョンシーン」では、iPadを使ったコマ撮り作品づくり、効果音のプログラミングや異文化理解をテーマにしたプログラムなどを体験しました。はじめは戸惑っていた1年生も、徐々に緊張がとけ、英語を使うことを楽しんで活動していました。2年生からは「去年より英語が聞き取れた」という声も多く、自らの成長を感じながら、充実して過ごせたようです。普段の学習の成果を、テストとは違った形で確認するとともに、また少し自分の世界が広がった時間になったと思います。



1～3年CDE組 キャリア教育「中学生向けマナー講座」

1～3年CDE組では、年に2回外部講師の方による講座を開催しています。2学期は「中学生向けマナー講座」というテーマで、専門学校日本ホテルスクールより講師をお招きし、「マナー」について講演いただきました。講師の方から、第一印象は3秒で決まること、身だしなみが大切になること等のお話がありました。その他、挨拶、お辞儀の角度、パーソナルスペース、声のボリューム、立ち居振る舞いなどについて、実際に生徒たちがペア活動を行いながら実践形式で学びました。生徒たちは、中学生の時期にマナーをしっかり身に付けて行くことが将来に向けて大切であることを認識できた有意義な講座となりました。以下の文章は生徒の感想です。

- ・お辞儀の角度に3パターンあることを知りました。【1年N. M.】
- ・社会に出る上で、マナーは大切だと思いました。表情の面で、自然に笑顔を出すのが難しいと思っていたのでコツを教えてもらえて良かったです。日常生活でも意識していきたいと思います。

【2年Y. I.】

- ・相手に対する思いやりを行動に表すことで、挨拶や会釈などを実践形式で学びました。今後の社会につなげていきたいと思います。

【3年T. S.】

